

I. 中心市街地全体に係る評価

〇計画期間:令和2年7月～令和8年3月(5年9月)

1. 計画期間終了後の市街地の概況

令和2年7月からスタートした第3期基本計画は、基本理念を「『飯田美しき町』魅力的な丘のまちの形成」とし、「美しい丘のまちのデザインづくり」「丘のまちの居場所・交流空間づくり」「丘のまちの快適な暮らし創造」「丘のまちの新たな価値創造」の4つの目標を掲げ、各事業を展開している。

旧ピアゴ他駅周辺低・未利用地活用整備事業により令和4年に移転した飯田市公民館では、誰でも自由に利用できるフリースペースの設置により、計画策定時の課題「幅広い世代が集いやすい交流拠点づくり」につながり、中心市街地の新たな交流拠点として効果が発現している。

子育て支援や親子の居場所づくりについては、トップヒルズ本町2階のゆいきっず広場への遊具設置、同建物内の橋南公民館の移転に加え、周辺飲食店と連携した出張図書館、夜の動物園を楽しむナイトツアー等の既存施設を活用した新たな魅力づくりにより、幅広い世代が交流する地域の拠り所として機能している。

施設利用者数から来街者の増加傾向が確認でき、中心市街地に4ヶ所設置されている市営駐車場も5年連続で利用件数が前年を上回っていることから、外からの人の流れは回復傾向にある。

一方で、人口減少が続いており、歩行者・自転車通行量調査では天候による影響もあり、基準値（平成30年）対比で約40%減少している。過去の調査結果から、施設利用者数の増加と通行量の増加は比例しておらず、特定の施設利用目的で訪れている利用者を、いかに街中へ誘導するかが課題となっている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日:毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	平成30年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)	令和7年度 (6年目)
人口	8,660	8,365	8,217	8,062	7,950	7,764	7,587
人口増減数		-295	-148	-155	-112	-186	-177
自然増減数		-220	-106	-134	-123	-131	-156
社会増減数		-69	-40	-21	11	-55	-21
転入者数		480	262	243	264	247	229

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ①概ね予定通り進捗・完了した ②予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

- ①活性化した
②若干活性化した
③計画策定時と変化なし
④計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

計画していた事業は主要事業を中心に実施できたため、概ね順調に進捗・完了したといえる。

旧ピアゴ他駅周辺低・未利用地活用整備事業により移転した飯田市公民館では、貸館利用だけでなく、誰でも自由に利用できるフリースペースの設置により、移転以降の施設利用者は目標値を大きく上回っている。

子育て支援や親子の居場所づくりについては、トップヒルズ本町2階のゆいきっず広場への遊具設置、周辺飲食店と連携した出張図書館、夜の動物園を楽しむナイトツアー等の既存施設を活用した新たな魅力づくりにより、都市福利及び文化・交流の主な公共施設利用者数は目標数値を上回っている。

また、空き店舗活用については、これまでの改修補助に加え家賃補助を拡充したことで、起業による空き家活用が促進され、目標数値の新規出店数を上回る実績につながっている。

施設利用者数から来街者の増加傾向が確認でき、中心市街地に4ヶ所設置されている市営駐車場も5年連続で利用件数が前年を上回っており(令和7年度前年比約9千件増)、外からの人の流れは回復傾向にある。一方で中心市街地区域の人口は基準年(平成30年)と比較して約12%減少しており、歩行者・自転車通行量調査では天候による影響もあり、基準値対比で約40%減少している。過去の調査結果から、施設利用者数の増加と通行量の増加は比例しておらず、特定の施設利用目的で訪れている利用者を、いかに街中へ誘導するかが課題となっている。

「りんご並木」を軸に官民が連携して開催している歩行者天国事業や各種事業では年間約7万人の集客があり賑わい創出に寄与している。また、りんご並木を「憩い集えるステージ」とするための車両進入規制を伴う社会実験を令和6年度に実施し、集客イベントでなく、日常的に憩い集える空間設置だけでも一定の効果発現を確認することができた。このような状況を踏まえ、りんご並木の今後を検討する市民会議において、理念の実現に向けた検討が継続されている。

今後は、特定の施設利用目的で訪れる利用者が街中へ誘導される仕掛けや魅力づくりを関係者間で検討し、ウォーカブルなまちづくりを目指す。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

- ・本計画に基づく事業については、ほぼ計画どおりに実施された。中心市街地の各施設利用者数は公共施設を中心にコロナ前の水準を上回る施設が多く、全体の利用者数からも中心市街地へ来街する人は増えてきていると推察されるが、中心市街地内への人流につながっていない。これまで取り組んできた歩行者天国事業等の各種イベントに加えて、中心市街地を訪ねる魅力、目的地となる事業を関係者と連携し進めていく。
- ・リニア中央新幹線開業は大幅な延期が公表されたことから、市全域の公共投資について抜本的に見直す必要がある。新時代に向けて飯田市のポテンシャルを高めるため、中心市街地の魅力形成に向けた取組を推進していく。
- ・支援制度の拡充もあり、空き家等の活用が推進されていることは評価できるが、中心市街地の少子高齢化、人口減少と構造物、人手不足による経済の疲弊を重要視し、安全な居住、社会インフラ等の再構築を再開発事業含め対応していく。
- ・中心市街地活性化基本計画が終了した後も、市民や事業者等により具体的事業を推進していく必要があり、引き続き中心市街地活性化協会の果たす役割は大きい。飯田市が今後の中心市街地のあり方を検討するにあたっては、令和5年度市街地基礎調査報告書の「今後の方向性と施策の検討」を基本に、中心市街地活性化協会の活動を支援されたい。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

飯田市中心市街地に関するアンケート（平成30年度）

調査日：平成31年1月15日～1月28日

調査方法：市民2,000人を無作為抽出しアンケートを郵送

有効サンプル数：765人

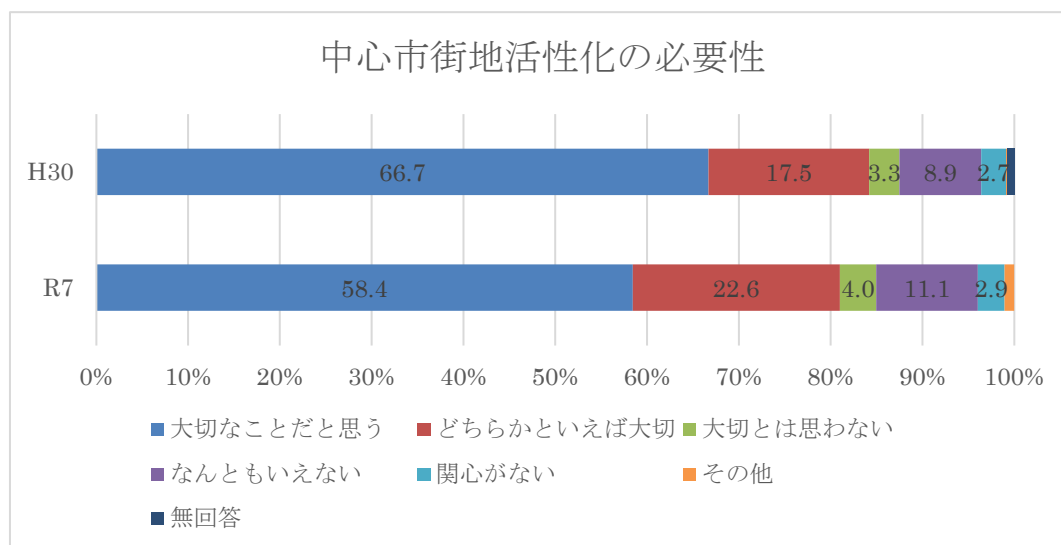
飯田市中心市街地に関するアンケート（令和7年度）

調査日：令和8年2月9日～2月27日

調査方法：市民2,000人を無作為抽出しアンケートを郵送

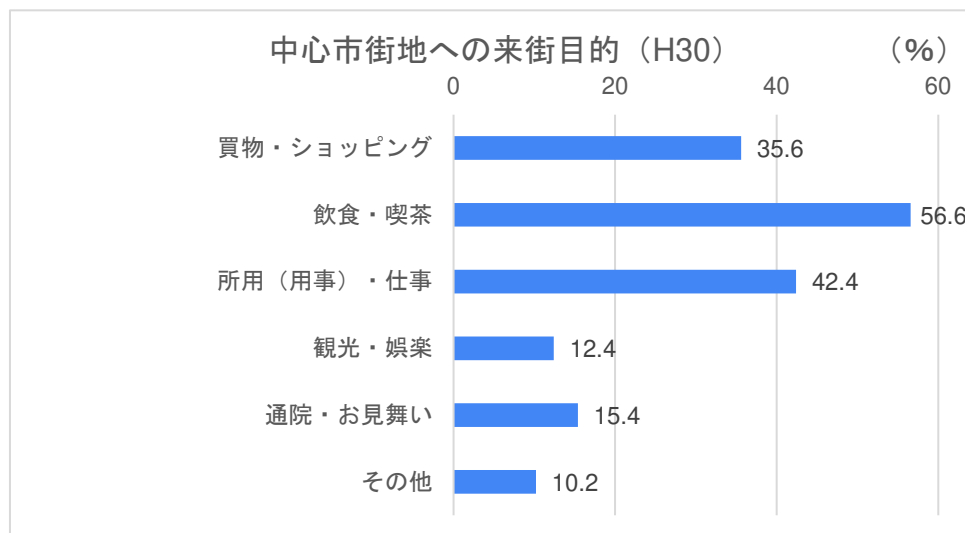
有効サンプル数：758人

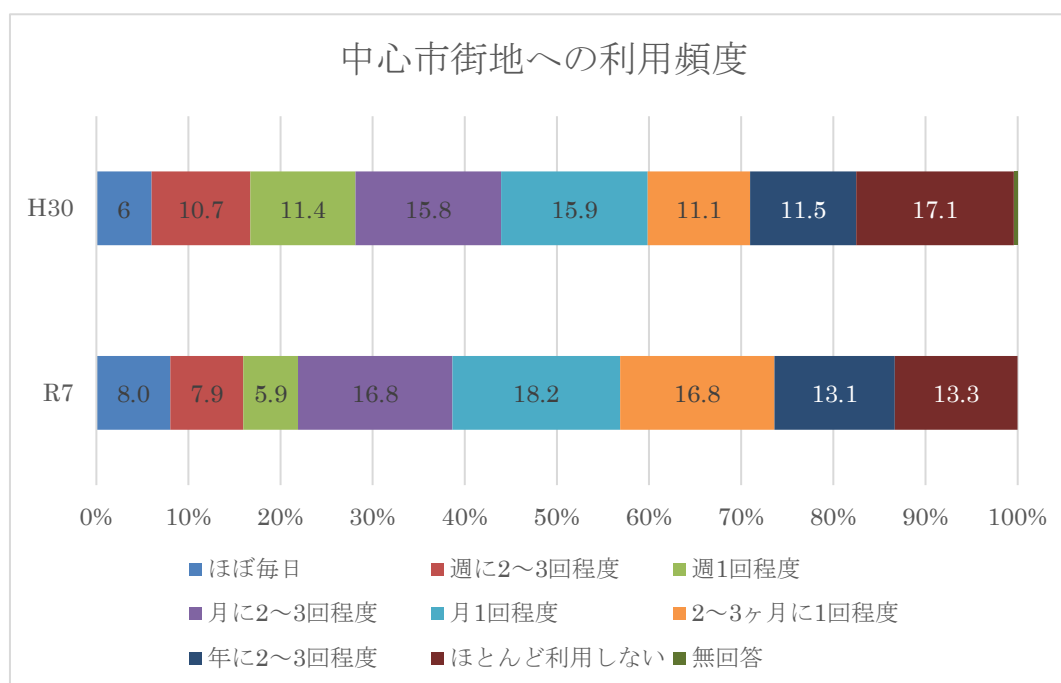
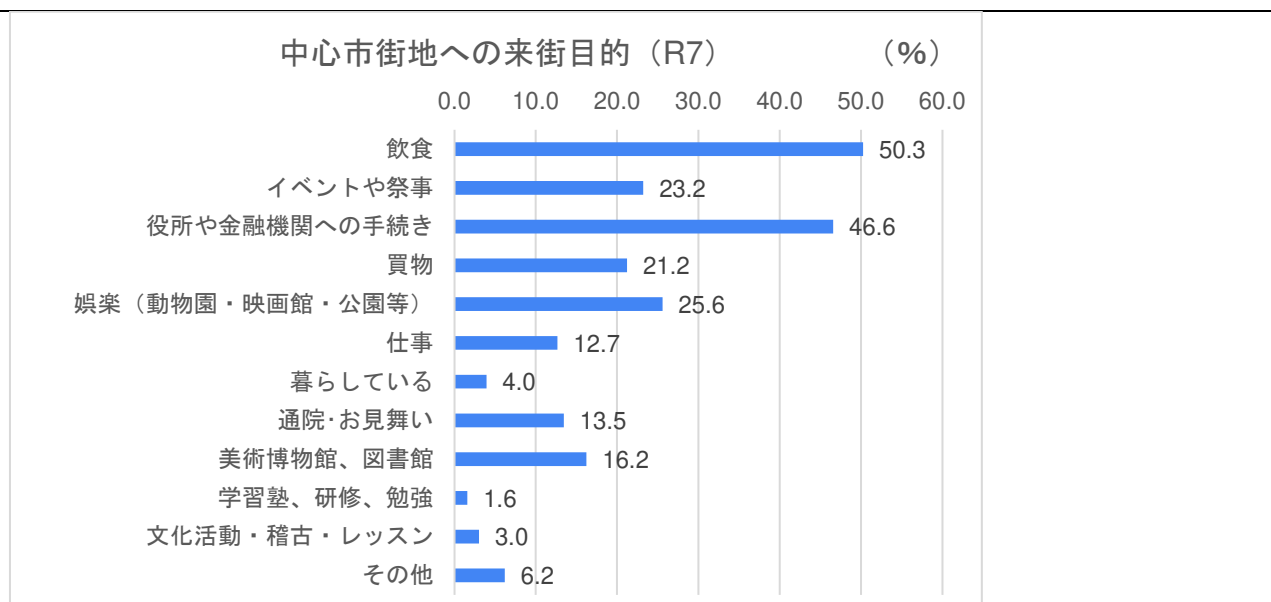
中心市街地の活性化について、「大切」「どちらかといえば大切」と考える人の割合がどちらの年度でも8割を超えており、多くの人が必要と考えていることがうかがえる。



中心市街地の来街目的はどちらの年度でも飲食が多く、令和7年度では項目を細分化したため、役所や金融機関への手続きで利用している人が4割を超え、イベントや動物園、美術博物館、図書館等の施設も一定の利用があることがわかった。

中心市街地の利用頻度については、「ほぼ毎日」「週に2～3回」を合わせても2割以下、「ほとんど利用しない」「年に2～3回」が約3割と日常的な利用には至っていない状況が続いている。

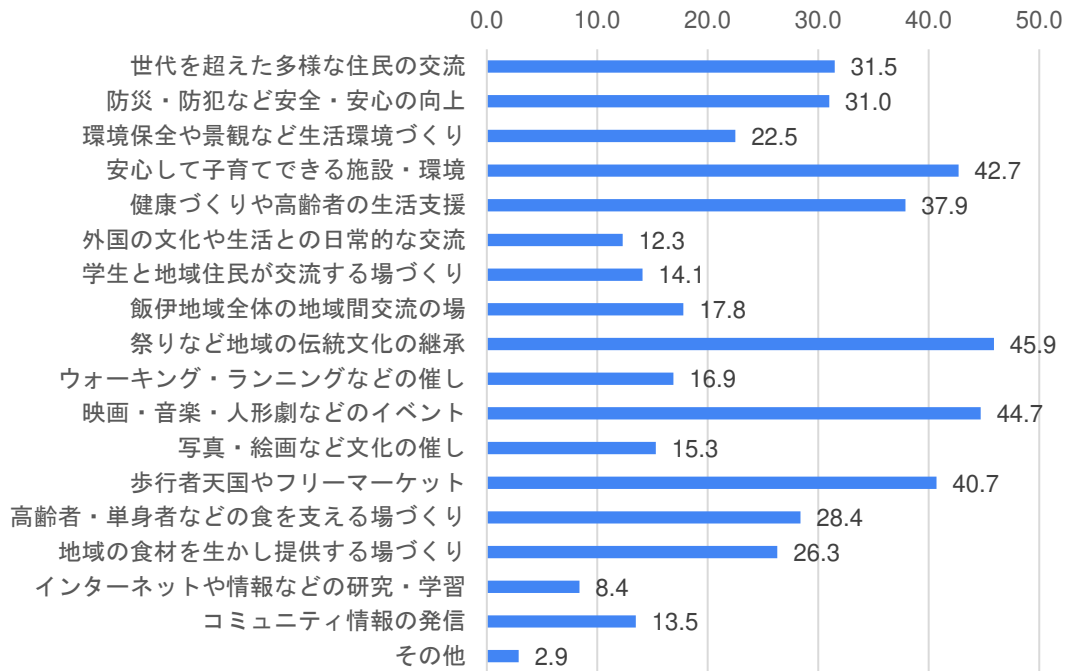




中心市街地で求められる役割・機能はどちらの年度でも子育て支援に関する意見が多いが、令和7年度では各項目で変化が見られ、多くの項目で約3割となっていることから、市民のニーズが多様化していることが推察される。

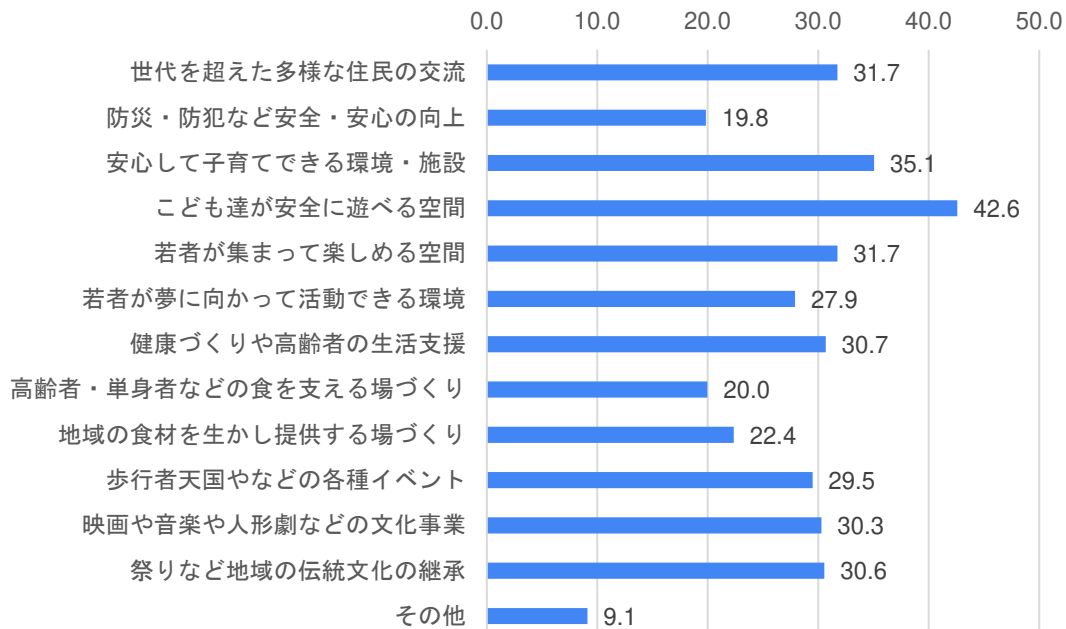
中心市街地で求められる役割・機能（H30）

（％）



中心市街地で求められる役割・機能（R7）

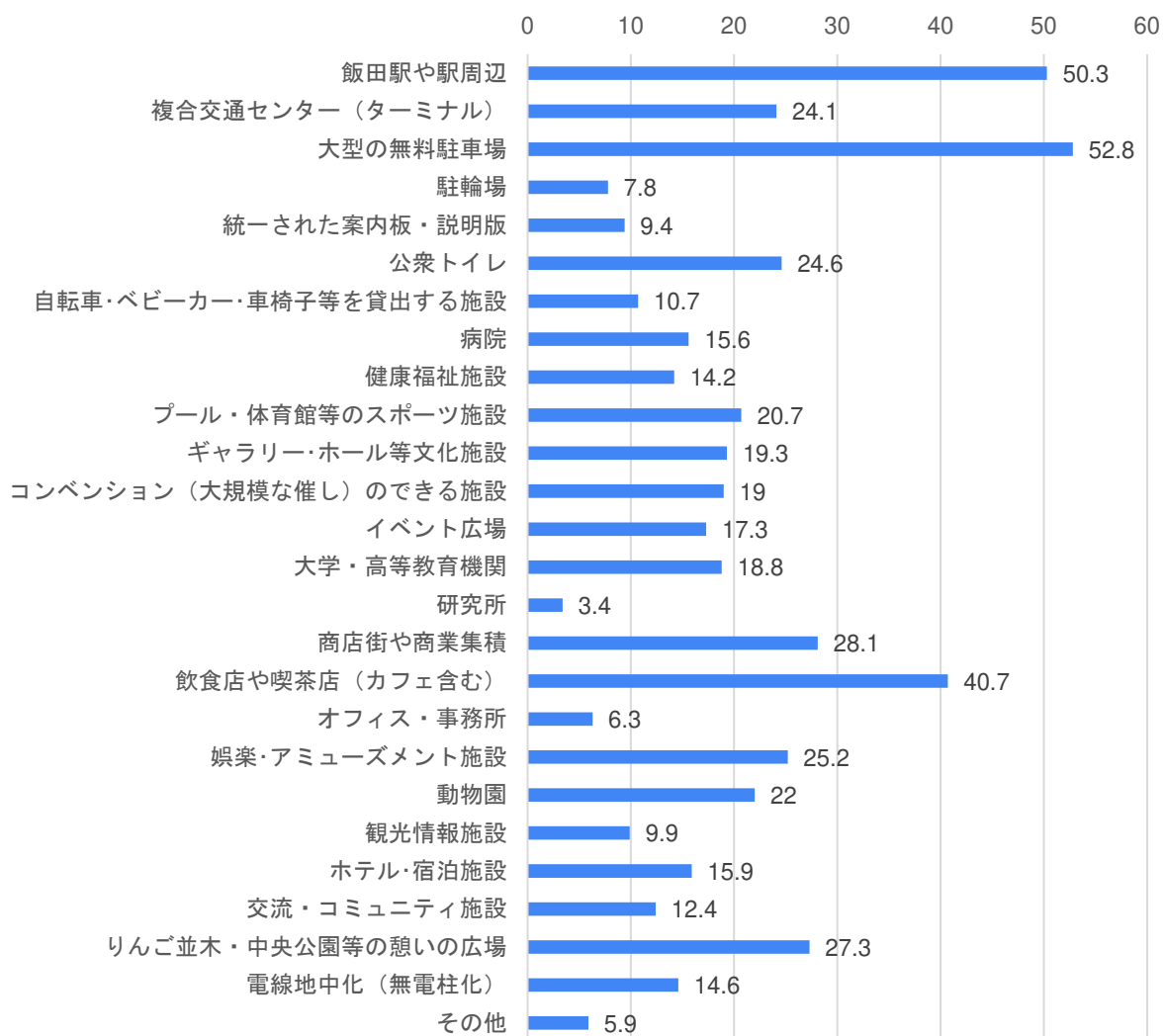
（％）



中心市街地で充実させるべき施設はどちらの年度でも「飯田駅や駅周辺」、「飲食店」とする意見が多いが、令和7年度では「全天候型のこどもの遊び場」、「娯楽・アミューズメント施設」など若者や子育て世代に関係する意見が多いことが特徴として見られる。

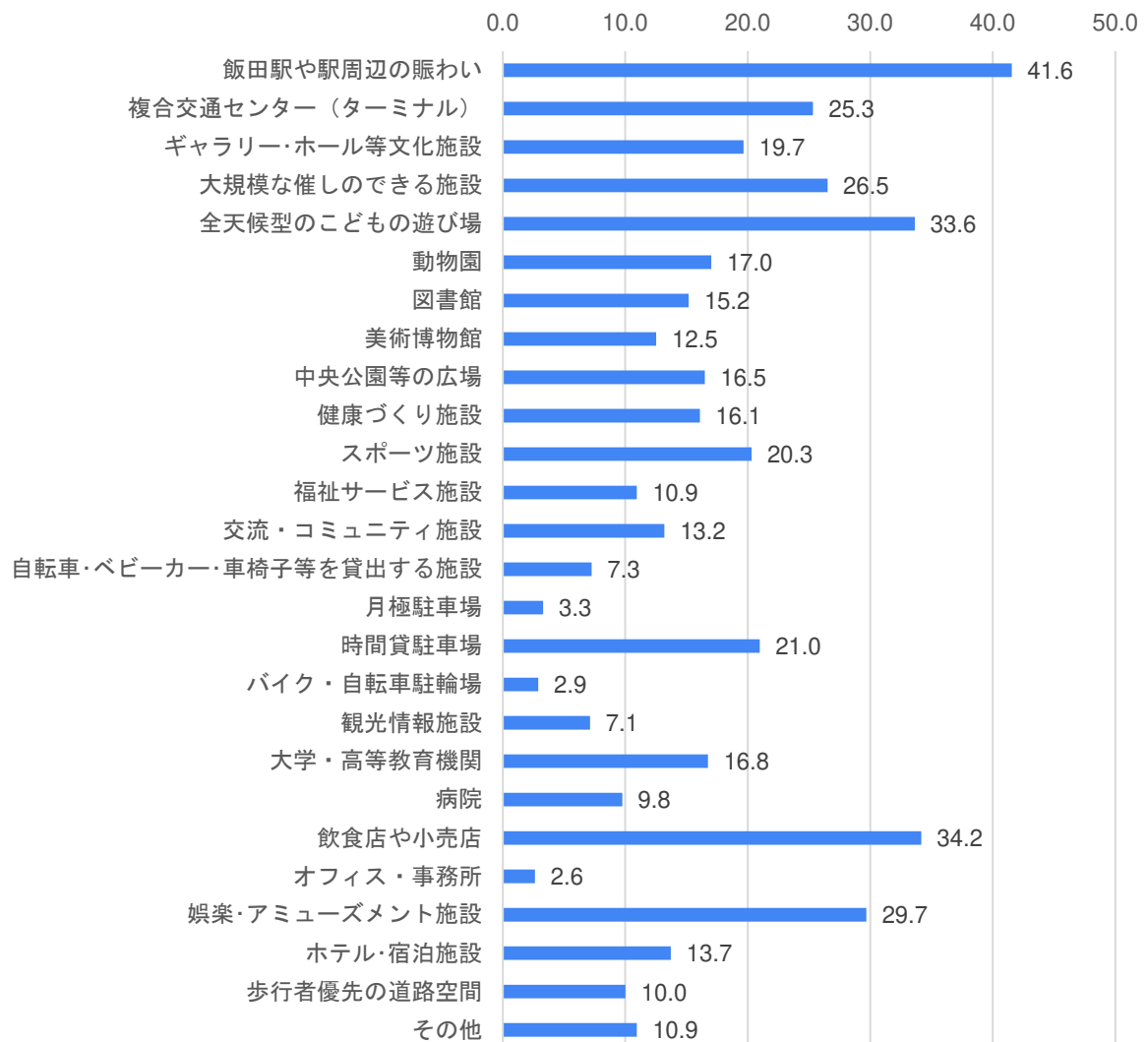
中心市街地で充実させるべき施設（H30）

（％）



中心市街地で充実させるべき施設（R7）

（％）



6. 今後の取組

本計画の取組により得られた賑わい創出の効果を、中心市街地全体へ波及させることが重要である。

市民アンケートからも、中心市街地活性化については肯定的な意見が多かったものの、計画策定時から回答の傾向が変わっておらず、活性化に向けた一層の取組が必要である。中心市街地で求められる役割・機能は多様化している一方、子育て支援を充実させ、若者を呼び込む取組も重要となっている。

今後は、計画の成果を活かしながら、引き続き官民一体となって魅力をさらに高め、「中心市街地の賑わい、歩いて楽しめるまちづくり」を推進していく。

令和8年度以降、中心市街地の各区域の特性・特長を整理し、それらを踏まえた中心市街地の方向性を市独自のビジョンとして示し、市民や事業者等と共有・連携を図り関連施策やまちづくり活動を推進していく。変化の激しい時代にあって、これまでの成果や積み上げを十分に生か

し、つなげ、より大きな成果とする観点から、中心市街地活性化基本計画での取組を継続しつつ、変化する地域を取り巻く環境やコロナ禍で変容した価値観等を捉え、各種事業を推進する。

今後も効果を継続していくことが重要であることから、飯田市基本構想・基本計画と連動し、各事業の目標指標に基づく評価を行い、PDCA サイクルを継続する。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から目標値までの幅の8割ライン	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
美しい丘のまちのデザインづくり	歩行者・自転車通行量 (休日)	9,475 人/日 (H30)	10,400 人/日 (R7)	10,215 人/日	5,328 人/日	R7.10	C
丘のまちの居場所・交流空間づくり	都市福祉施設利用者数 (年間)	209,214 人/年 (H30)	214,800 人/年 (R7)	213,682 人/年	283,185 人/年	R8.3	A
丘のまちの快適な暮らし創造	新規出店数 (年間)	3 店舗/年 (H20～H30の平均)	5 店舗/年 (R2.7～R8.3の平均)	4.6 店舗/年	6 店舗/年	R8.3	A
丘のまちの新たな価値創造	文化・交流施設利用者数 (年間)	284,094 人/年 (H30)	299,600 人/年 (R7)	296,498 人/年	321,214 人/年	R8.3	A

<達成状況の分類>

A：目標達成、B1：概ね目標達成（基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている）、B2：基準値より改善（基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない）、C：基準値に及ばない

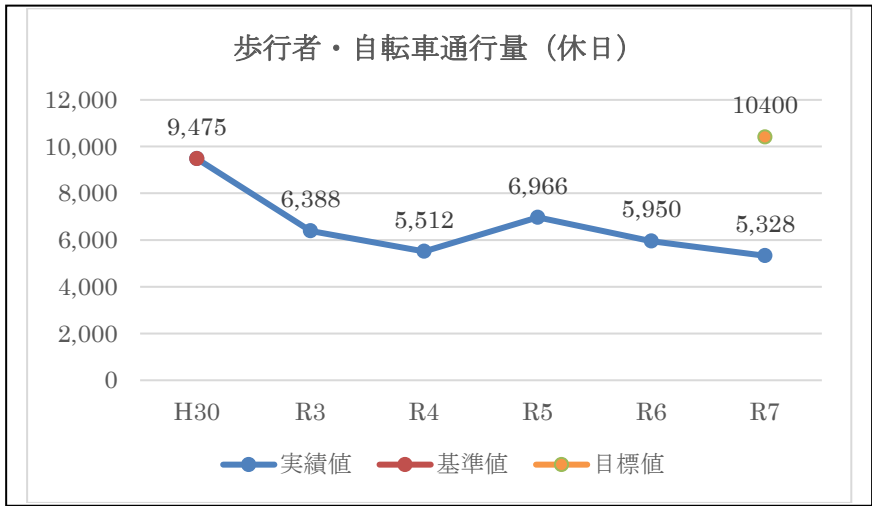
※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、英字を小文字にして英数字に下線を引いて下さい。（例：a、b1、b2、c）

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

（1）「歩行者・自転車通行量（休日）」（目標の達成状況【C】）

※目標値設定の考え方認定基本計画 P.109～P.111 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
H30	9,475 (基準年値)
R2	
R3	6,388
R4	5,512
R5	6,966
R6	5,950
R7	5,328
R7	10,400 (目標値)

※調査方法：計画地点での調査員による通行量調査

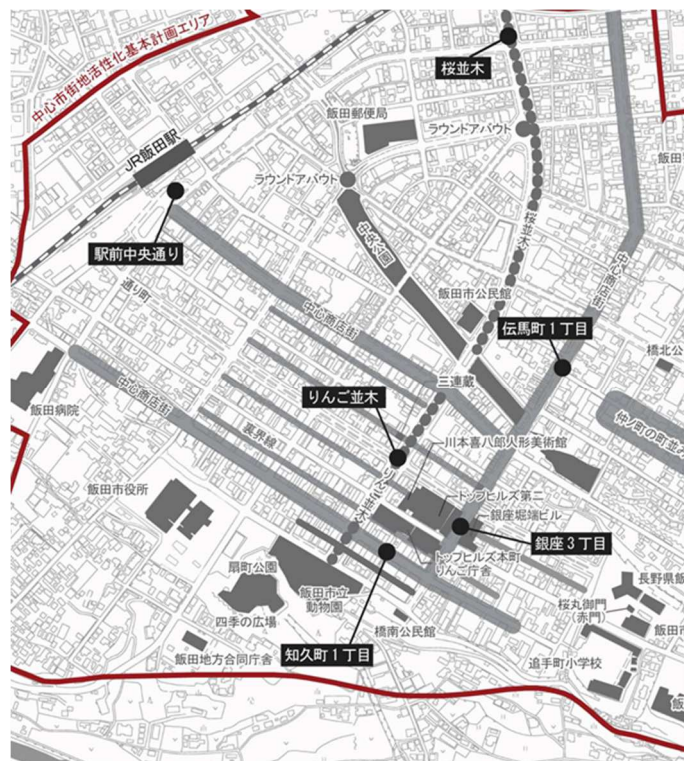
※調査月：令和7年10月

※調査主体：飯田市

※調査対象：歩行者及び自転車 土曜日6地点

(駅前・中央通り、りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、
伝馬町1丁目、桜並木)

調査地点図



(単位：人)

	平成30年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)	令和7年度 (6年目)
駅前・中央通り	3,316		2,212	2,286	3,286	2,876	2,874
りんご並木	1,774		1,246	686	900	874	632
知久町1丁目	744		390	378	360	340	410
銀座3丁目	2,734		1,534	1,310	1,352	1,246	836
伝馬町1丁目	640		564	448	530	276	268
桜並木	267		442	404	538	338	308
合計	9,475		6,388	5,512	6,966	5,950	5,328

〈分析内容〉

調査当日は昨年に続き雨天であり、基準値との比較では全ての地点が減少。前年との比較では知久町1丁目を除く5地点で昨年度を下回る結果となった。基準値対比で約40%減少、前年度対比で約9%減少した。前年度対比で特に減少率の高い調査地点は銀座3丁目が約32%減少、桜並木が約28%の減少となった。

一方で、歩行者・自転車通行量の増加に向けた各事業については概ね予定どおり完了した。後述する旧ピアゴ商業施設等整備事業により、移転した飯田市公民館の施設利用者は、移転前と比較し 88%の増加につながっている。他にも主な公共施設で基準値を上回る利用者数となっていることから中心市街地を訪れる人は増加傾向にあると考えられる。また、空き家・空き店舗の活用についても起業等の相談件数は年々増加傾向にあり、春草通り活用事業、ライフスタイルの低炭素化事業、丘のまち回遊促進事業でも、ソフト事業として新しい取り組みにチャレンジしていることから、歩行者・自転車の通行量には反映されていないが、事業効果として中心市街地の賑わいに寄与していると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 桜並木整備事業（飯田市、まちづくり委員会）

事業実施期間	平成 22 年度～ 【実施中】
事業概要	市民や来街者がゆっくり歩いて鑑賞でき、四季を通じて楽しめる空間として桜並木を整備することで、滞留と回遊の創出を図る
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集集中支援事業（国土交通省） 令和 6 年度～令和 7 年度
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：391 人/日 最新値：308 人/日（目標未達成） （基準値から事業目標値までの幅の 8 割ライン 366 人/日も下回っている。） 調査地点：桜並木
達成した（出来なかった）理由	令和 3 年度以降 3 年間は目標値を上回る状況が続いていたが、調査当日が雨天となった令和 6 年度及び 7 年度は目標値を下回る結果となった。 当該地点は桜並木沿いに散策を楽しめる場所であり、天候による影響が大きいと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	事業予定箇所内のラウンドアバウトを、景観含めより歩きやすい環境となるよう整備した。令和 8 年度以降の周辺道路整備に向けた調整が進んでいる。また、継続的に桜並木を守っていくためには衰退が見られる桜の樹の適正な更新が必要であることから、関係者で検討を重ね令和 6 年度に「桜の更新計画」を策定し、更新を開始している。
事業の今後について	当該通りは、市内の桜の名所にもなっており、南側に位置するりんご並木とともに中心市街地の一体的な緑のネットワークを形成している。今後も計画的に管理し、安全に楽しんで歩いてもらえるよう取り組んでいく。

②. 旧ピアゴ他駅周辺低・未利用地活用整備事業

（飯田市、飯田市中心市街地活性化協会、(株)飯田まちづくりカンパニー、飯田駅前プラザ(株)）

事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【済】
事業概要	リニア中央新幹線の開通を見据え、広域交通拠点と中心拠点及び鉄道・バス等の交通結節点となる、旧ピアゴ等を含む飯田駅周辺の低・未利用地について、教育文化施設や賑わい空間施設等の活用整備を官民連携で行うことにより、新たな魅力拠点の創出を図る。

国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（飯田市中心市街地地区））（国土交通省） 令和３年度～令和７年度
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値： 3,569 人/日 最新値： 2,874 人/日（目標未達成） （基準値から事業目標値までの幅の８割ライン 3,518 人/日も下回っている。） 調査地点：駅前中央通り
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、令和４年５月に建物改修を終え「丘の上結いスクエア」として竣工した。当該施設が立地している付近の調査地点 駅前中央通りの歩行者通行量は、目標値を最新値では2,874 人となっており、目標値を設定した際の見込み（事業目標値）3,569 人を下回っている。コロナ禍で減少した後、令和５年度には基準年と同水準まで通行量が増加したが、調査当日が雨天となった令和６年度及び７年度はまた減少しており、天候による影響もあったと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	これまで貸館の利用者が中心であった市公民館が、どなたでも立ち寄り利用できるフリースペースを整備したことにより、現在は貸館利用者のみならず、中心市街地の居場所の一つとして年間約 14 万人の施設利用につながっていることから、期待された効果は発現していると考えられる。 施設内に移転した市公民館では貸館施設と、予約なしで誰でも利用できるフリースペース施設を設置したことにより、旧市公民館と比較し利用者数は大幅に増加している。 通行量の目標値は達成していないものの、他の地点より減少幅が少ないことから本事業による一定の効果があったと考えられる。
事業の今後について	「丘の上結いスクエア」では飯田市公民館やムトスまちづくり支援機能など様々な機能を配置し、高校生や若者が集いやすい地理的利点等を活かし、交流、学びから実践につながる創発活動を支援している。施設のフリースペースの利用促進が施設全体の利用者数増加につながることから、各種団体による書道や絵画等の美術展、飯田下伊那の小中学校の各種展示、天候に左右されない強みを活かしたイベント等をフリースペースで展開し交流人口の拡大を図る。

③. 旧ピアゴ商業施設等整備事業（吉川建設㈱、商店街ほか）

事業実施期間	令和２年度～令和７年度【済】
事業概要	平成 30 年 9 月末に閉店した飯田駅前大型商業施設「旧ピアゴ」を、内外の観光客等のニーズに対応する複合商業施設へと商店街や民間事業者が一体となり整備することで、域外等から新たな需要を取り込み消費の喚起に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	商店街活性化・観光消費創出事業（中小企業庁） 令和２年 7 月～令和 8 年 3 月
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値： 3,569 人/日 最新値： 2,874 人/日（目標未達成） （基準値から事業目標値までの幅の８割ライン 3,518 人/日も下回っている。） 調査地点：駅前中央通り
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、令和４年５月に建物改修を終え「丘の上結いスクエア」として竣工した。当該施設が立地している付近の調査地点 駅前中央通りの歩行者通行量は、目標値を最

	新値では2,874人となっており、目標値を設定した際の見込み(事業目標値) 3,569人を下回っている。コロナ禍で減少した後、令和5年度には基準年と同水準まで通行量が増加したが、調査当日が雨天となった令和6年度及び7年度はまた減少しており、天候による影響もあったと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	これまで貸館の利用者が中心であった市公民館が、どなたでも立ち寄り利用できるフリースペースを整備したことにより、現在は貸館利用者のみならず、中心市街地の居場所の一つとして年間約14万人の施設利用につながっていることから、期待された効果は発現していると考えられる。 施設内に移転した市公民館では貸館施設と、予約なしで誰でも利用できるフリースペース施設を設置したことにより、旧市公民館と比較し利用者数は大幅に増加している。 通行量の目標値は達成していないものの、他の地点より減少幅が少ないことから本事業による一定の効果があったと考えられる。
事業の今後について	「丘の上結いスクエア」では飯田市公民館やムトスまちづくり支援機能など様々な機能を配置し、高校生や若者が集いやすい地理的利点等を活かし、交流、学びから実践につながる創発活動を支援している。施設のフリースペースの利用促進が施設全体の利用者数増加につながることから、各種団体による書道や絵画等の美術展、飯田下伊那の小中学校の各種展示、天候に左右されない強みを活かしたイベント等をフリースペースで展開し交流人口の拡大を図る。

④. 健康福祉拠点活用事業（(社医) 栗山会、カーブス、(株)なみき)

事業実施期間	平成26年度～ 【実施中】
事業概要	高齢化が進む中心市街地において、市民の健康寿命延伸のため、銀座堀端ビル等を拠点として、地域に居住する高齢者の生活支援施策、地域住民の健康支援事業、地域住民の健康・福祉データバンク機能、子育て支援のため整備した拠点を活用することで、まちなか居住者の健康増進と交流の機会の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値： 5,915人/日 最新値： 2,146人/日（目標未達成） （基準値から事業目標値までの幅の8割ライン 5,910人/日も下回っている。） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目
達成した(出来なかった)理由	調査当日が雨天だったことから目標値を約64%下回る結果となった。雨天のため来街や回遊を控えた、自家用車等による目的地・施設への直接アクセスによるものと推察している。またコロナ以降の通行量は、これまで基準値に回復しておらず、コロナ禍をきっかけとして来街目的の多様化、変化している可能性がある。調査地点前の銀座堀端ビルでは、デイサービス機能の移転があり、提供している健康福祉サービス利用者もコロナ禍で減少し、回復までには至っていない。
計画終了後の状況及び事業効果	通行量、健康福祉サービス利用者ともにコロナ禍で減少して以降横ばいが続いている状況。一方で周辺施設のトップヒルズ本町には橋南公民館が移転し、各種団体の健康教室が行われるなど、地域の健康増進と交流の機会の増加につながっている。

事業の今後について	周辺施設のトップヒルズ本町では令和4年度に商業施設のなみきマーケットが開店、橋南公民館も移転してきている。また、同建物2階にはゆいきっず広場もあり、幅広い世代の交流の場として施設は利用されており、コロナ禍前と比較しても利用者は増加していることから、積極的な事業PR等により賑わい創出を図る。
⑤. 子育て世代包括支援事業（飯田市）	
事業実施期間	令和2年度～ 【実施中】
事業概要	中心市街地において、子育て世代にとって住みやすい環境づくりが求められており、子育て支援や親子の居場所づくりを行うことにより、来街者の利便性向上や居住人口の増大を図る
国の支援措置名及び支援期間	子ども家庭応援センター事業（厚生労働省） 令和2年度～令和7年度
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値： 5,915 人/日 最新値： 2,146 人/日（目標未達成） （基準値から事業目標値までの幅の8割ライン 5,910 人/日も下回っている。） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目
達成した（出来なかった）理由	調査当日が雨天だったことから目標値を約 64%下回る結果となった。雨天のため来街や回遊を控えた、自家用車等による目的地・施設への直接アクセスによるものと推察している。またコロナ以降の通行量は、これまで基準値に回復しておらず、コロナ禍をきっかけとして来街目的の多様化、変化している可能性がある。
計画終了後の状況及び事業効果	トップヒルズ本町2階では、本事業として実施しているゆいきっず広場を活用しつつ、体を動かして楽しむ遊具を設置するなど、親子の居場所づくりとしての取り組みを進めていることもあり、施設利用者は基準値対比で約 100%増加につながっていることから、子育て支援の需要への対応、親子の居場所づくりとしての効果は発現していると考えられる。
事業の今後について	令和6年4月に飯田市こども課をトップヒルズ本町2階に配し、こども相談・子育て相談・発達支援の強化により子ども家庭総合支援拠点機能を充実してきている。今後もこども・若者・親子の居場所づくりを推進する。
⑥. 多世代交流拠点事業（まちづくり委員会、NP0 法人おしゃべりサラダ、飯田市）	
事業実施期間	令和2年度～ 【実施中】
事業概要	子育て世代・高齢者等の支援とイベント等の情報交流の場と機会づくりを通じて、誰もが気軽に集える第3の居場所づくりを行い、まちなかの賑わい創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地域子育て支援拠点事業（厚生労働省） 令和2年7月～令和8年3月 中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値： 5,915 人/日 最新値： 2,146 人/日（目標未達成） （基準値から事業目標値までの幅の8割ライン 5,910 人/日も下回っている。） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目

達成した（出来なかった）理由	調査当日が雨天だったことから目標値を約 64%下回る結果となった。雨天のため来街や回遊を控えた、自家用車等による目的地・施設への直接アクセスによるものと推察している。またコロナ以降の通行量は、これまで基準値に回復しておらず、コロナ禍をきっかけとして来街目的の多様化、変化している可能性がある。
計画終了後の状況及び事業効果	トップヒルズ本町2階では、本事業として実施しているゆいきっず広場を活用しつつ、体を動かして楽しむ遊具を設置するなど、親子の居場所づくりとしての取り組みを進めていることもあり、施設利用者は基準値対比で約 100%増加につながっている。また、同建物内の橋南公民館利用者も基準値対比で約 230%増加となっていることから、幅広い世代が交流する地域の拠り所としての効果は発現していると考えられる。
事業の今後について	トップヒルズ本町では令和4年度に商業施設のなみきマーケットが開店、橋南公民館も移転している。また、同建物の2階に配置している乳幼児親子の交流施設ゆいきっず広場を活用しつつ、新たに小学生向けの遊具や、利用者の声や要望を自由に記載する掲示板を設置するなどの取り組みにより、親子連れをはじめとする幅広い世代の交流の場としての機能を充実し、賑わいの創出を図る。

⑦. 地区空き家バンク連携事業（まちづくり委員会、飯田市）

事業実施期間	令和2年度～ 【実施中】
事業概要	中心市街地の3地区が協働で空き家バンクを開設し、空き家・空き店舗情報を収集する体制づくりと情報発信を行うことにより、まちなかの居住環境整備を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：4,604 人/日 最新値：1,514 人/日（目標未達成） （基準値から事業目標値までの幅の8割ライン 4,506 人/日も下回っている。） 調査地点：知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目
達成した（出来なかった）理由	調査当日が雨天だったことから目標値を約 67%下回る結果となった。雨天のため来街や回遊を控えた、自家用車等による目的地・施設への直接アクセスによるものと推察している。またコロナ以降の通行量は、これまで基準値に回復しておらず、コロナ禍をきっかけとして来街目的の多様化、変化している可能性がある。
計画終了後の状況及び事業効果	調査地点の知久町1丁目、銀座3丁目の周辺施設の橋南公民館、飯田市立動物園、ゆいきっず広場等はコロナ禍前と比較し施設利用者が増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。
事業の今後について	各地区の空き家リストを引き続き作成し、活用が推進されるよう利用可能な空き家を精査していく。橋北地区では、空き家に関する知識を深める学習会や、地区内配布用のリーフレットを作成し、空き家予防への意識啓発に取り組んでいるため、他地区でも情報発信や意識啓発を強化し、地区内の居住環境整備を推進する。

⑧. 空き家・空き店舗活用事業

((まちづくり委員会、(株)飯田まちづくりカンパニー、飯田商工会議所、(一社)空き家人情プロジェクト、明治大学、飯田市))

事業実施期間	令和２年度～ 【実施中】
事業概要	地域、市民団体、各種団体が連携して空き家・空き店舗活用の実行組織・仕組みづくりを構築し、既存施設や空き家・空き店舗の調査、マッチング、開業支援を行うことで、歩いて買物・飲食や滞在ができるまちづくりに取り組むことにより、商業の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和２年７月～令和８年３月
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値： 4,604 人/日 最新値：1,514 人/日（目標未達成） （基準値から事業目標値までの幅の８割ライン 4,506 人/日も下回っている。） 調査地点：知久町１丁目、銀座３丁目、伝馬町１丁目
達成した（出来なかった）理由	調査当日が雨天だったことから目標値を約 67%下回る結果となった。雨天のため来街や回遊を控えた、自家用車等による目的地・施設への直接アクセスによるものと推察している。またコロナ以降の通行量は、これまで基準値に回復しておらず、コロナ禍をきっかけとして来街目的の多様化、変化している可能性がある。
計画終了後の状況及び事業効果	調査地点の知久町１丁目、銀座３丁目の周辺施設の橋南公民館、飯田市立動物園、ゆいきっず広場等はコロナ禍前と比較し施設利用者が増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。事業としてはまちづくりカンパニーで SNS や新聞広告等を利用した空きテナント情報を発信したこともあり１店舗の出店につながり、コロナ禍で増えた空きテナントも概ね新規出店により埋まってきている。
事業の今後について	利活用可能な空き家・空き店舗の情報を精査し地区外へ情報発信することで一定の効果が期待できるため、地区空き家バンク連携事業や市で取り組んでいる空き家バンク制度を有効に活用して事業推進を図る。

⑨. まちなか起業推進事業

(飯田商工会議所、(一社) South-Heart、飯田市中心市街地活性化協会、飯田市)

事業実施期間	令和２年度～ 【実施中】
事業概要	まちなかの経済的な衰退傾向に歯止めをかけるため、空き家・空き店舗活用や商業集積再生の担い手となる起業希望者育成及び開業支援を実施することにより、経済活力の向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和２年７月～令和７年３月
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値： 4,604 人/日 最新値：1,514 人/日（目標未達成） （基準値から事業目標値までの幅の８割ライン 4,506 人/日も下回っている。） 調査地点：知久町１丁目、銀座３丁目、伝馬町１丁目
達成した（出来なかった）理由	調査当日が雨天だったことから目標値を約 67%下回る結果となった。雨天のため来街や回遊を控えた、自家用車等による目的地・施設への直接アクセスによるものと推察している。またコロナ以降の通行量は、これまで基準値に回復しておらず、コロナ禍をき

	けとして来街目的の多様化、変化している可能性がある。
計画終了後の状況及び事業効果	調査地点の知久町1丁目、銀座3丁目の周辺施設の橋南公民館、飯田市立動物園、ゆいぎっず広場等はコロナ禍と比較し施設利用者が増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。事業としては、起業支援として市の空き店舗活用推進事業補助金を活用し新たに3店舗の出店につなげている。
事業の今後について	空き店舗を活用した市の起業支援制度の利用促進に向けて、事業者の相談窓口となる飯田商工会議所等へ制度周知を図る。また、制度活用により起業した事業者の出店支援となる機会を提供することで、空き店舗活用による起業の推進を図る。

⑩. 春草通り活用事業（まちづくり委員会、飯田市）

事業実施期間	令和2年度～ 【実施中】
事業概要	仲ノ町から旧飯田測候所を「春草通り」と命名し、地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの活性化を図る。 旧飯田測候所に付属する測風塔を、環境教育とコミュニティ活動の拠点として地域で活用できる展望台施設等へと改修することで付加価値を与え、ソフト事業との相乗的効果を図ることにより、まちなかの賑わいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値： 5,956 人/日 最新値： 2,146 人/日（目標未達成） （基準値から事業目標値までの幅の8割ライン 5,943 人/日も下回っている。） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目
達成した（出来なかった）理由	調査当日が雨天だったことから目標値を約 64%下回る結果となった。雨天のため来街や回遊を控えた、自家用車等による目的地・施設への直接アクセスによるものと推察している。またコロナ以降の通行量は、これまで基準値に回復しておらず、コロナ禍をきっかけとして来街目的の多様化、変化している可能性がある。
計画終了後の状況及び事業効果	周辺施設の橋北公民館の利用者数はコロナ禍前の水準まで回復していないが、沿線の空き家を改修し市民が集える居場所づくりの提案事業や旧飯田測候所でのイルミネーション事業、春草生誕 150 周年事業として秋の茶会等の取り組みにより賑わい創出を図っている。また、旧飯田測候所は令和7年度から民間事業者のノウハウを活かした指定管理者制度の運営に変更した結果、施設利用者数の目標値を達成している。
事業の今後について	民間事業者のノウハウを活かした旧飯田測候所の指定管理者制度の運営により、地域と連携した施設の有効活用に加えて、春草通りを活かした地域の取り組みや、沿線の空き家を活用した居場所づくり事業、風情ある春草通りを活用するための学習会等による空間価値の意識向上に取り組むことでまちの賑わいを創出していく。

⑪. 丘のまち情報交流サロン事業（飯田市）

事業実施期間	令和2年度～ 【実施中】
事業概要	中心市街地の情報提供やコミュニティ活動の拠点として、本市の施設を活用した市民交流サロンの検討と整備を実施し、官民連携の事業推進と市民活動の支援を行うことにより、さらなる丘のまちの魅

	力向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値： 5,956 人/日 最新値： 2,146 人/日（目標未達成） （基準値から事業目標値までの幅の8割ライン 5,943 人/日も下回っている。） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目
達成した（出来なかった）理由	調査当日が雨天だったことから目標値を約 64%下回る結果となった。雨天のため来街や回遊を控えた、自家用車等による目的地・施設への直接アクセスによるものと推察している。またコロナ以降の通行量は、これまで基準値に回復しておらず、コロナ禍をきっかけとして来街目的の多様化、変化している可能性がある。
計画終了後の状況及び事業効果	文化交流施設利用者数は基準値対比で約 13%増加し、目標値対比も約 8%増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。
事業の今後について	丘のまち情報交流サロンは当初の予定を変更し、情報提供機能を観光案内所及びまちなかインフォメーションセンターへ、交流機能をゆいきっす広場及びムトスぷらざへ機能分散し設置している。また、令和4年5月にトップヒルズ本町1階に商業施設のなみきマーケットが開店し、さらに、店内には交流スペースも設置されていることから、周辺施設含めてまちなか居住者や来訪者に対する新たな交流の場として利用いただけるよう、さらに連携を深め丘のまちの魅力向上に取り組む。

⑫. ライフスタイルの低炭素化事業

（まちづくり委員会、おひさま進歩エネルギー株、飯田市）

事業実施期間	令和2年度～ 【実施中】
事業概要	中心市街地にあるエコハウス、旧飯田測候所を拠点に、エコライフに関するイベントや環境教育等の省エネルギーを目指したライフスタイルの普及・啓発活動を実施することにより、快適なまちなか居住の推進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値： 5,956 人/日 最新値： 2,146 人/日（目標未達成） （基準値から事業目標値までの幅の8割ライン 5,943 人/日も下回っている。） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目
達成した（出来なかった）理由	調査当日が雨天だったことから目標値を約 64%下回る結果となった。雨天のため来街や回遊を控えた、自家用車等による目的地・施設への直接アクセスによるものと推察している。またコロナ以降の通行量は、これまで基準値に回復しておらず、コロナ禍をきっかけとして来街目的の多様化、変化している可能性がある。
計画終了後の状況及び事業効果	文化交流施設利用者数は基準値対比で約 13%増加し、目標値対比も約 8%増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。各種事業の際にエコハウスを活用し、エコライフに関するイベントや環境教育等の普及・啓発活動に取り組んだことで、基準値対比で約 47%の増加となり目標を達成している。

事業の今後について	エコハウス単独事業での集客は難しいことから、エコハウスで開催する講座等の充実を図りながら、沿線で行っている事業や周辺施設と連携した取り組みを実施することにより、事業の推進及び施設利用者の増加を図る。
⑬. 丘のまち回遊促進事業 (まちづくり委員会、NP0 いいだ応援ネットイデア、飯田まちなか回遊促進研究会 環境文化教育機構(株)、飯田市)	
事業実施期間	令和2年度～ 【実施中】
事業概要	来街者の核施設となる飯田市立動物園を軸に、りんご並木、桜並木、春草通りに点在する個店や飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館等の施設が連携し、まちなか回遊を生み出すスタンプラリー事業の展開により、中心市街と全体の商業活性化への効果波及を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値： 5,956 人/日 最新値： 2,146 人/日（目標未達成） （基準値から事業目標値までの幅の8割ライン 5,943 人/日も下回っている。） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目
達成した（出来なかった）理由	調査当日が雨天だったことから目標値を約 64%下回る結果となった。雨天のため来街や回遊を控えた、自家用車等による目的地・施設への直接アクセスによるものと推察している。またコロナ以降の通行量は、これまで基準値に回復しておらず、コロナ禍をきっかけとして来街目的の多様化、変化している可能性がある。
計画終了後の状況及び事業効果	文化交流施設利用者数は基準値対比で約 13%増加し、目標値対比も約 8%増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。事業として春休みに取り組んでいる「丘の上さんぽラリー」は、これまでの加盟店の追加や事業内容の見直し、参加店舗で扱う商品の景品化等により、令和7年度においても過去最高の応募数を得ることができた。
事業の今後について	中心市街地の店舗を知ってもらうことを目的に開始した丘の上さんぽラリーは、事業も定着化し参加者も増加してきているため、今後も店舗を訪問し楽しんで回遊できる要素を充実させることに加えて、周辺施設との連携をさらに深め事業の強化を図る。
⑭. 丘のまちミュージアム活用事業 (まちづくり委員会、飯田市)	
事業実施期間	平成26年度～ 【実施中】
事業概要	飯田市美術博物館、まちづくり委員会、地域商店街等が連携し、飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、歴史文化遺産、文化芸能、町並み、景観のすべてを地域ミュージアムと捉え、それぞれが関連するテーマを題材とする特別展示等を企画し、知的交流拠点となるまちなかを創出し、来訪者の回遊推進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和2年7月～令和8年3月

事業目標値・最新値 及び達成状況	目標値： 5,956 人/日 最新値： 2,146 人/日（目標未達成） （基準値から事業目標値までの幅の8割ライン 5,943 人/日も下回っている。） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目
達成した（出来なかった）理由	調査当日が雨天だったことから目標値を約 64%下回る結果となった。雨天のため来街や回遊を控えた、自家用車等による目的地・施設への直接アクセスによるものと推察している。またコロナ以降の通行量は、これまで基準値に回復しておらず、コロナ禍をきっかけとして来街目的の多様化、変化している可能性がある。
計画終了後の状況 及び事業効果	文化交流施設利用者数は基準値対比で約 13%増加し、目標値対比も約 8%増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。施設利用者数は基準値対比で中央図書館が約 37%の増加となり、他の施設の多くがコロナ禍において減少した状態から回復してきている。
事業の今後について	各施設独自の取り組みにより、概ね基準値を上回る利用者数につながってきている。一方で、飯田市美術館及び川本喜八郎人形美術館の施設利用者数は、基準値対比で減少している。市外からの入館者が多く、ツアー等の団体客がコロナ禍以降回復に至っていないことも理由として挙げられるが、周辺施設を結ぶ取り組み等により、市内の施設利用者の拡充を図ることで目標達成を目指す。

⑮. ソサイエティ 5.0 社会を見据えたデジタル技術活用まちづくり事業
（丘メン実行委員会、飯田市）

事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【済】
事業概要	次世代デジタル技術を活用し、中心市街地の名所を情報発信するとともに、回遊につながる仕組みをつくることで、関係人口拡大や地域のデジタル産業の振興を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和 2 年 7 月～令和 8 年 3 月
事業目標値・最新値 及び達成状況	目標値： 5,956 人/日 最新値： 2,146 人/日（目標未達成） （基準値から事業目標値までの幅の8割ライン 5,943 人/日も下回っている。） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目
達成した（出来なかった）理由	調査当日が雨天だったことから目標値を約 64%下回る結果となった。雨天のため来街や回遊を控えた、自家用車等による目的地・施設への直接アクセスによるものと推察している。またコロナ以降の通行量は、これまで基準値に回復しておらず、コロナ禍をきっかけとして来街目的の多様化、変化している可能性がある。
計画終了後の状況 及び事業効果	文化交流施設利用者数は基準値対比で約 13%増加し、目標値対比も約 8%増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。事業としては企業協力の基、地元高校生と共同で GPS 機能を活用したまちなかの人流データ調査や、市の観光資源の一つである桜や焼肉店をスマホで紹介、案内できるコンテンツを作成し情報発信に取り組んだ。
事業の今後について	次世代デジタル技術を楽しんでもらうことができるコンテンツ作成に取り組むことに加えて、課題解決に向けた活用方法にも取り組むことで、関係人口の拡大と地域のデジタル化を目指す。

⑩. 交流人口・関係人口増大支援事業（（株）南信州観光公社、飯田商工会議所、飯田市）

事業実施期間	令和２年度～ 【実施中】
事業概要	リニア時代に向けた大都市圏との近隣交流を踏まえ、まちなか観光を促進し、国内外から多くの人を引き付ける魅力づくりに取り組むことで、交流人口・関係人口・滞在人口の拡大を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和２年７月～令和８年３月
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：設定していない 最新値：－
達成した（出来なかった）理由	観光でも利用されている文化交流施設利用者数は基準値対比で約１３％増加し、目標値対比も約８％増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	観光でも利用されている文化交流施設利用者数は基準値対比で約１３％増加し、目標値対比も約８％増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。事業としては南信州観光公社が実施するまちなかランチ事業で団体向け利用が本格化しており、南信州こだわりの旅ツアーの「第３回サステナブルな旅アワード(2025 年度)」特別賞の受賞や長年に渡る広域での農家民泊の取組が「2025 年世界の持続可能な観光地 TOP100 選」（GDTOP100）に選出されるなど、持続可能な観光のモデルケースとして高く評価されてきている。
事業の今後について	観光需要の少ない冬をターゲットにした南信州冬のキャンペーンや、旅の目的を場所から人へフォーカスした南信州人物図鑑などを活用して、当地域との関係人口拡大を目指し、この地域への再訪を促していく。

●今後の対策

調査当日が雨天ということもあり「歩行者・自転車通行量」の全ての主要事業が目標未達成となっている。一方で都市福利施設と文化交流施設の利用者数は、基準値及び目標値共に上回っていることから事業効果としての発現はあり、中心市街地へ訪れる人は増加していると考えられる。

また、令和５年度から関係者と協議を重ね、りんご並木を「憩い集えるステージ」とするための社会実験を令和６年度実施した。主な実験内容としては、車両を規制し道路をオープンテラスにする空間づくりに取り組み、飯田動物園来園者の誘導にも取り組んだが、動物園目的で来ている人を誘導することは困難であったことから、来街者のニーズに沿った目的地づくりが必要との結論となり、引き続き事業展開を検討することとなった。

今後は、特定の施設目的で訪れている利用者が街中へ誘導される仕掛けや魅力づくりを関係者間で検討し、ウォークアブルなまちづくりを推進し歩行者等の通行量増加を目指す。

(単位：人/年)

	平成 30 年度 (計画前年度)	令和 2 年度 (1 年目)	令和 3 年度 (2 年目)	令和 4 年度 (3 年目)	令和 5 年度 (4 年目)	令和 6 年度 (5 年目)	令和 7 年度 (6 年目)
カーブス	55,261	41,014	47,828	47,386	47,018	46,392	48,826
(株) なみき ※令和 4 年度より堀端デイ	4,843	3,272	2,255	683	1,590	-	-
ウェルネスタウン	1,900	2,450	880	628	576	1,673	1,274
ゆいきっず	9,862	13,532	11,606	15,244	22,196	20,079	20,425
飯田市公民館	73,687	29,654	46,598	44,236	164,944	149,694	138,841
橋北公民館	21,094	9,842	11,164	13,210	14,854	14,906	20,291
橋南公民館	8,825	4,703	6,307	12,581	18,873	21,112	29,138
東野公民館	26,599	14,792	14,410	16,246	29,929	21,457	24,390
合計	202,071	119,259	141,008	150,214	299,980	275,313	283,185

※(株)なみきのデイサービスが令和 3 年 12 月に閉業。その後、令和 4 年 6 月にデイサービス「堀端デイ」が開始されたが令和 6 年 2 月に閉業したため、令和 6 年度以降の利用者数は計測できていない。

〈分析内容〉

「都市福利施設利用者数」は、基準値対比で約 40%増加し目標値対比でも約 32%上回っている。基準値及び目標値を上回っている大きな要因は飯田市公民館の施設移転である。旧飯田市公民館は施設老朽化のため、前述の旧ピアゴ他駅周辺低・未利用地活用整備事業により、令和 4 年 5 月に駅前の大型商業施設を改修し移転した。改修の際は、以前より需要が高かった「幅広い世代が集いやすい交流拠点づくり」を実現するため、貸館としての公民館機能だけでなく、大規模なフリースペースも改修と併せて整備した結果、基準値対比で約 88%の利用者数増加につながっている。

他にも、トップヒルズ本町 2 階のゆいきっず広場では、体を動かして楽しむ遊具を設置するなど、親子の居場所づくりとしての取り組みを進めていることもあり、施設利用者は基準値対比で約 107%増加につながっている。また、同建物内へ移転した橋南公民館利用者も基準値対比で約 230%増加していることから、幅広い世代が交流する地域の拠り所としての効果が発現した結果と考えられる。

一方で民間の福祉施設では(株)なみきがデイサービス事業を行っていたが、施設規模に見合った介護人材の確保が困難だったことに加えて、コロナ禍で利用者数が減少したことにより令和 3 年 12 月に事業閉鎖となった。その後、別の事業者が令和 4 年 6 月堀端デイとしてデイサービス事業を開始したが、施設規模に見合う運営が難しかったことから、令和 6 年 2 月に閉業となった。他にも、ウェルネスタウン内にあるフィットネスクラブ丘の上はコロナ禍により設けた利用制限を当面解除する予定がないため、福祉サービス機能の縮小に伴う利用者数減少が見られる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 健康福祉拠点活用事業（(社医)栗山会、カーブス、(株)なみき）

事業実施期間	平成 26 年度～ 【実施中】
事業概要	高齢化が進む中心市街地において、市民の健康寿命延伸のため、銀座堀端ビル等を拠点として、地域に居住する高齢者の生活支援施策、地域住民の健康支援事業、地域住民の健康・福祉データバンク機能、子育て支援のため整備した拠点を活用することで、まちなか居住者の健康増進と交流の機会の増加を図る。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：施設利用者数：65,324 人/年 最新値：施設利用者数：50,100 人/年（目標未達成） （基準値から事業目標値までの幅の8割ライン 64,660 人/年も下回っている。） 調査地点：カーブス、(株)なみき、ウェルネスタウン
達成した（出来なかった）理由	目標値を約 23%下回る結果となった。コロナ禍で減少して以降、令和3年度より横ばいとなり回復していない。民間の福祉施設では(株)なみきがデイサービス事業を行っていたが、施設規模に見合った介護人材の確保が困難だったことに加えて、コロナ禍で利用者数が減少するなど福祉サービス機能の縮小に伴う利用者数減少も考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	（株）なみきのデイサービス事業を引き継ぎ、令和4年度に堀端デイが規模を縮小し事業を開始したが令和6年2月に移転により閉鎖した。また、ウェルネスタウンはコロナにより利用者制限を設けた運営方法に見直し、現在も縮小した運営を継続している。カーブスもコロナ禍で利用者減少後、回復までには至っていない。一方で周辺施設のトップヒルズ本町には橋南公民館が移転し、各種団体の健康教室が行われるなど、地域の健康増進と交流の機会の増加につながっている。
事業の今後について	周辺施設のトップヒルズ本町では令和4年度に商業施設のなみきマーケットが開店、橋南公民館も移転してきている。また、同建物2階にはゆいきっず広場もあり、幅広い世代の交流の場として施設は利用されており、コロナ禍前と比較しても利用者は増加していることから、積極的な事業 PR 等により新たな福祉機能の事業の誘致を目指す。

②. 子育て世代包括支援事業（飯田市）

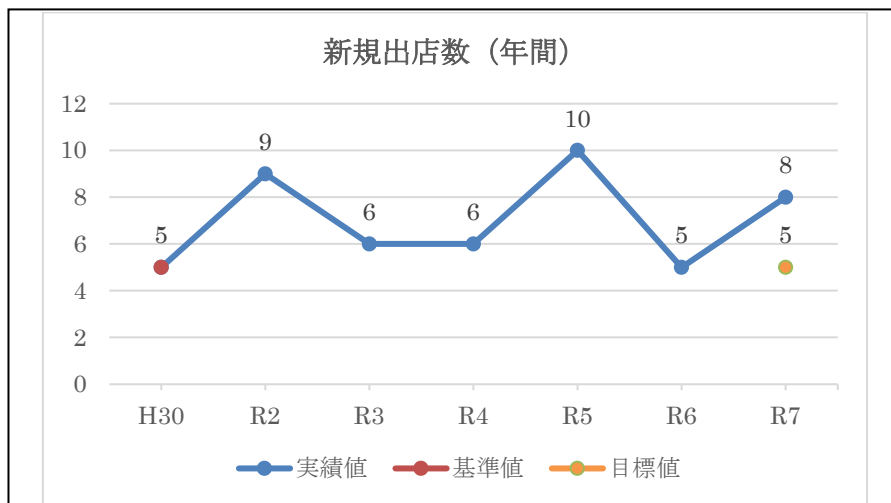
事業実施期間	令和2年度～ 【実施中】
事業概要	中心市街地において、子育て世代にとって住みやすい環境づくりが求められており、子育て支援や親子の居場所づくりを行うことにより、来街者の利便性向上や居住人口の増大を図る。
国の支援措置名及び支援期間	子ども家庭応援センター事業（厚生労働省） 令和2年度～令和7年度
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：施設利用者数：10,942 人/年 最新値：施設利用者数：20,425 人/年（目標達成） 調査地点：ゆいきっず
達成した（出来なかった）理由	すべての年度で目標値を達成しており、令和7年度では目標値を約83%上回る結果となった。近年の気象状況から猛暑や雨の日でも遊べる施設としてのニーズが高まっており、遊具の設置や施設の周知が進んできたことからコロナ禍においても基準年を超える利用につながっていると考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	トップヒルズ本町2階では、本事業として実施しているゆいきっず広場を活用しつつ、体を動かして楽しむ遊具を設置するなど、親子の居場所づくりとしての取り組みを進めている。施設利用者は基準値対比で100%以上の増加につながっていることから、子育て支援の需要への対応、親子の居場所づくりとしての効果は発現していると考えられる。

事業の今後について	トップヒルズ本町2階へ令和6年に飯田市こども課を新設し、こども相談・子育て相談・発達支援の強化を行っている。今後も子ども家庭総合支援拠点機能を充実するとともに、こども・若者・親子の居場所づくりを推進する。
③. 多世代交流拠点事業（まちづくり委員会、NPO 法人おしゃべりサラダ、飯田市）	
事業実施期間	令和2年度～ 【実施中】
事業概要	子育て世代・高齢者等の支援とイベント等の情報交流の場と機会づくりを通じて、誰もが気軽に集える第3の居場所づくりを行い、まちなかの賑わい創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：施設利用者数：131,405人/年 最新値：施設利用者数：212,660人/年（目標達成） 調査地点：飯田市公民館、橋北公民館、橋南公民館、東野公民館、NPO 法人おしゃべりサラダ
達成した（出来なかった）理由	コロナ禍には大きく減少していた施設利用者も令和5年度以降は目標達成しており、令和7年度は目標値を約62%上回る結果となった。大きな要因は令和4年度に移転した飯田市公民館で、年間約14万人、基準値対比で約88%増加の施設利用につながっている。これは整備前から需要の高かった「幅広い世代が集いやすい交流拠点の整備」として、大規模なフリースペースを設置したことが大きな要因と考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地に関係する公民館ではコロナ禍以前の利用者数に回復してきている。中でも令和4年度に橋南公民館が移転したトップヒルズ本町では、商業施設のなみきマーケットが開店し、また、同建物2階にはゆいきっず広場もあり、幅広い世代の交流の場として施設は利用されている。移転後の橋南公民館の利用者数は年々増加しており、令和7年度には基準値対比で約230%の増加となっている。
事業の今後について	事業は順調に進んでいるため、公民館での各講座やフリースペースの有効活用により第3の居場所づくりをさらに推進していく。
●今後の対策 「都市福利施設利用者数」は、主要3事業の内2事業が目標を達成した。子育て支援及び多世代交流による効果は、ゆいきっず広場の事業拡充や飯田市公民館、橋南公民館の改修・移転により大きな効果が発現していることから、引き続き第3の居場所づくりとして施設の周知・運営を推進していく。民間福祉事業の閉鎖による空きテナントに対しては、新たな事業者の誘致やテナントの有効活用を検討し、福祉機能の充実と交流機会の増加を目指す。	

(3)「新規出店数(年間)」(目標の達成状況【A】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P. 109～P. 111 参照

●調査結果と分析：新規出店数(年間) ※基準値は平成20年～平成30年の平均



年	(単位：店舗/年)
H30	5 (基準値)
R2	9
R3	6
R4	6
R5	10
R6	5
R7	8
R7	計画期間中の平均 5店舗/年 (目標値)

※調査方法：各事業担当者より聞き取り

※調査月：令和8年4月(令和7年度末集計)

※調査主体：飯田市

※調査対象：飯田市空き家環境整備補助金、飯田市空き家改修補助金、飯田市子育て世帯引越費用補助金、飯田市空き店舗活用推進事業補助金、まちづくりカンパニー

※上記のうち中心市街地活性化基本計画のエリアのみ対象

(単位：店舗/年)

	平成30年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)	令和7年度 (6年目)
新規出店数	3	9	6	6	10	5	8

〈分析内容〉

今年度の「新規出店数」は8件(店舗8件、民家0件)であった。基準値対比で5店舗増加し、計画期間中の平均値は7.3店舗/年の出店につながっていることから目標値も上回っている。新規出店数を把握することは難しいため、調査対象を市支援策の各種補助金実績及びまちづくりカンパニー所有のテナント新規出店者を合算し算出している。まちなか起業推進事業は目標値2店舗/年に対して計画期間中の平均値は3.8店舗/年となっていることから、支援制度の拡充が事業効果につながっていると考えられる。地区空き家バンク連携事業と空き家・空き店舗活用事業は目標値3店舗/年に対して計画期間中の平均値は3.5店舗/年となっている。コロナ禍の影響により空きテナントが増加したが、収束により新規契約数の増加につながっていることが要因と考えられる。一方で、資材不足、物価高や光熱水費等の経常経費の増加等による新規出店へのマイナス材料が今後も見込まれる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 地区空き家バンク連携事業(まちづくり委員会、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の3地区が協働で空き家バンクを開設し、空き家・空き店舗情報を収集する体制づくりと情報発信を行うことにより、ま

	ちなかの居住環境整備を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：新規出店数：3店舗/年 最新値：新規出店数：1店舗/年（目標未達成） ※空き家・空き店舗活用事業含む 調査地点：中心市街地活性化基本計画エリア 令和7年度では目標値を2件下回る結果となったが、計画期間中の平均値は3.5店舗/年となっており、目標を達成している。
達成した（出来なかった）理由	コロナ禍の影響により空きテナントが増加したが、収束により新規契約数の増加につながっていることが要因と考えられる。一方でまちづくりカンパニー所有の空きテナントが少なくなっていることから令和7年度の実績が少なくなっている。
計画終了後の状況及び事業効果	数値は制度を活用した新規出店数のため少なく見えるが、現状は空き家・空き店舗に対する相談件数や全市対象の空き家バンク制度への登録件数は年々増加傾向にあることから、空き家・空き店舗に対する需要は高まっていると考えられる。コロナ禍により増加した空きテナントについても新店舗等に活用されている。
事業の今後について	「地区空き家バンク連携事業」としては、全市対象の空き家バンク制度が開設されているため有効的に活用し、空き家・空き店舗活用を後押しする支援制度の検討や、中心市街地限定のバンク制度の必要性や情報収集・発信についてを、まちづくり委員会とともに検討していく。

②. 空き家・空き店舗活用事業

（まちづくり委員会、㈱飯田まちづくりカンパニー、飯田商工会議所、（一社）空き家人情プロジェクト、明治大学、飯田市）

事業実施期間	令和2年度～ 【実施中】
事業概要	地域、市民団体、各種団体が連携して空き家・空き店舗活用の実行組織・仕組みづくりを構築し、既存施設や空き家・空き店舗の調査、マッチング、開業支援を行うことで、歩いて買物・飲食や滞在ができるまちづくりに取り組むことにより、商業の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：新規出店数：3店舗/年 最新値：新規出店数：1店舗/年（目標未達成） 調査地点：中心市街地活性化基本計画エリア 令和7年度では目標値を2件下回る結果となったが、計画期間中の平均値は3.5店舗/年となっており、目標を達成している。
達成した（出来なかった）理由	コロナ禍の影響により空きテナントが増加したが、収束により新規契約数の増加につながっていることが要因と考えられる。一方でまちづくりカンパニー所有の空きテナントが少なくなっていることから令和7年度の実績が少なくなっている。
計画終了後の状況及び事業効果	数値は制度を活用した新規出店数のため少なく見えるが、現状は空き家・空き店舗に対する相談件数や全市対象の空き家バンク制度への登録件数は年々増加傾向にあることから、空き家・空き店舗に対する需要は高まっていると考えられる。コロナ禍により増加した空きテナントについても新店舗等に活用されている。

事業の今後について	制度周知や店舗誘致を更に強化することで事業推進を図るとともに、空き店舗等の新しい活用方法を引き続き検討していく。
-----------	--

③. まちなか起業推進事業
(飯田商工会議所、(一社) South-Heart、飯田市中心市街地活性化協会、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～ 【実施中】
事業概要	まちなかの経済的な衰退傾向に歯止めをかけるため、空き家・空き店舗活用や商業集積再生の担い手となる起業希望者育成及び開業支援を実施することにより、経済活力の向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和2年7月～令和7年3月
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：新規出店数：2店舗/年 最新値：新規出店数：7店舗/年（目標達成） 調査地点：中心市街地活性化基本計画エリア 達成状況：令和7年度では目標値を大きく上回る成果を上げることができた。計画期間中の年平均値も約 3.8店舗となっており、目標を達成している。
達成した（出来なかった）理由	コロナ禍の影響により空きテナントが増加したが、収束により新規契約数の増加につながっている。また、令和5年度より新規出店者への賃借料補助助制度を拡充したこともあり、空き店舗を活用した起業相談件数も増加傾向にある。
計画終了後の状況及び事業効果	令和7年度において空き店舗を活用した市の起業支援制度の相談が多かったことから追加募集を行い支援を行った結果、計画期間中で最大の新規出店数となった。
事業の今後について	空き店舗を活用した市の起業支援制度の利用促進に向けて、事業者の相談窓口となる飯田商工会議所等へ制度周知を図る。また、制度活用により起業した事業者の出店支援となる機会を提供することで、空き店舗活用による起業の推進を図る。

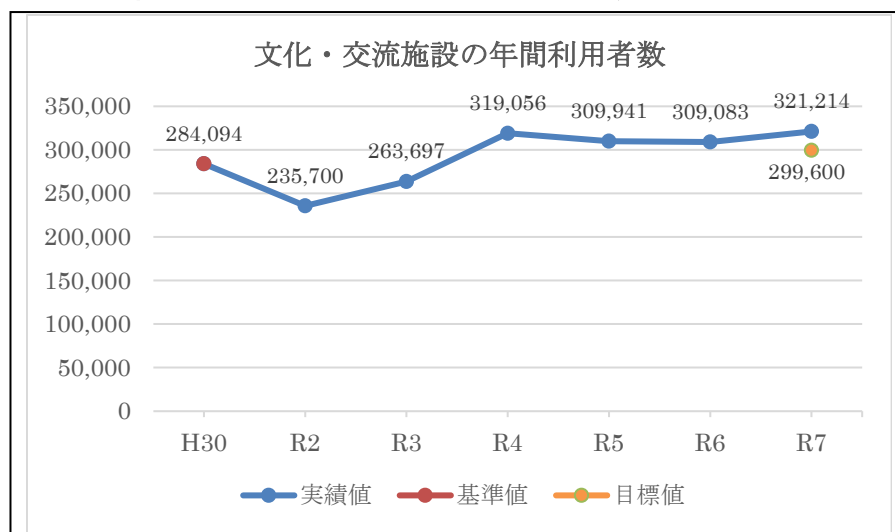
●今後の対策

「新規出店数」は、コロナ禍からの回復の動きや支援制度拡充により、目標値である計画期間中の平均値5店舗/年を上回り、7.3店舗/年の出店につながっている。特に近年は事業者の出店数が多く空きテナントも埋まってきている状況である。また、支援制度に関する事業者からの問い合わせも年々増加している。一方で民家としての空き家利用は進んでいないため、支援制度の周知及びまちなか居住の魅力発信に取り組む必要がある。また、今後も想定される資材不足、物価高や光熱水費等の経常経費の増加等による新規出店へのマイナス材料がどのように影響してくるか、見極めたうえで必要な対策を講じていく。

(4)「文化・交流施設利用者数(年間)」(目標の達成状況【A】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P. 109～P. 111 参照

●調査結果と分析：文化・交流施設利用者数(年間)



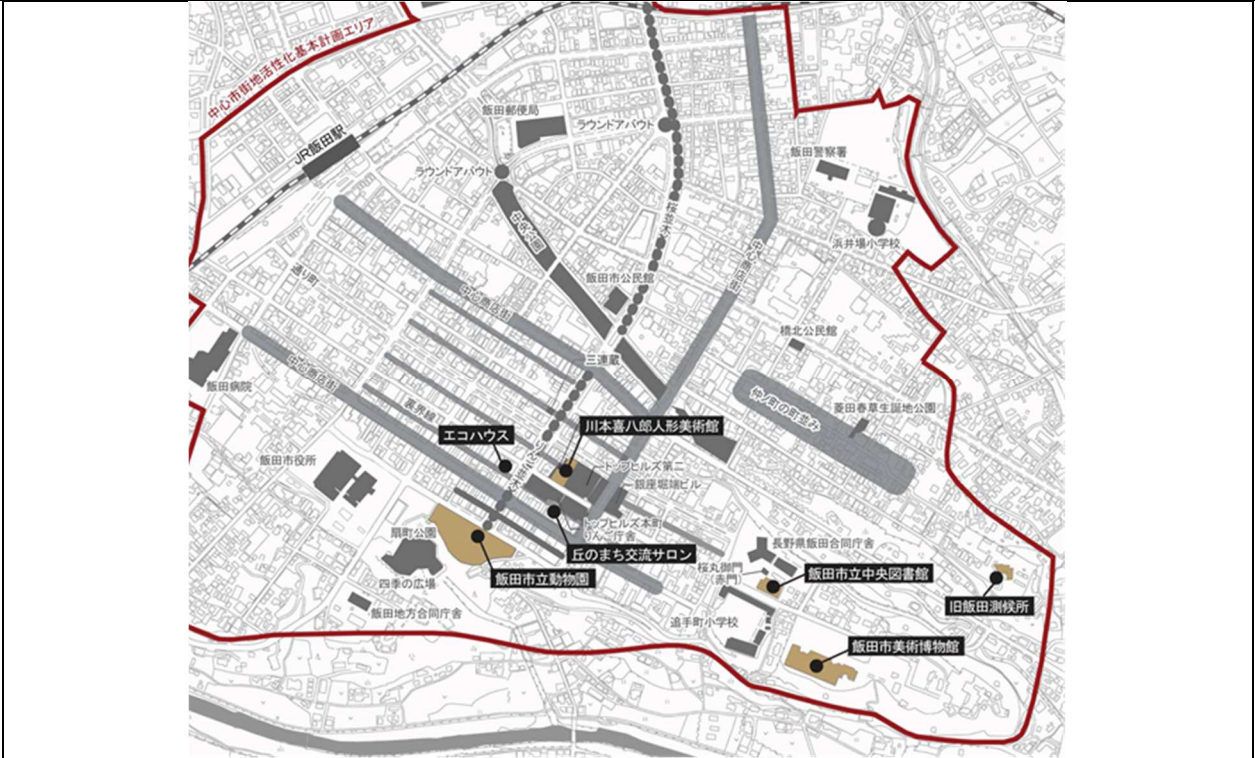
年	
H30	284,094 人/年 (基準値)
R2	235,700 人/年
R3	263,697 人/年
R4	319,056 人/年
R5	309,941 人/年
R6	309,083 人/年
R7	321,214 人/年
R7	299,600 人/年 (目標値)

※調査方法：各施設担当者より聞き取り

※調査月：令和8年4月(令和7年度末集計)

※調査主体：飯田市

※調査対象：旧飯田測候所、丘のまち交流サロン、エコハウス、飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園



(单位:人/年)

	平成30年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)	令和7年度 (6年目)
旧飯田測候所	1,312	1,254	1957	1,192	1,018	1,000	1,517
丘のまち情報 交流サロン							
エコハウス	5,234	1,707	2,313	2,860	4,877	6,481	7,680
飯田市 美術博物館	42,832	27,675	36,790	37,882	29,438	36,045	37,521
川本喜八郎 人形美術館	12,256	4,482	4,514	7,431	7,607	7,955	10,338
飯田市立 中央図書館	96,158	91,888	96,722	121,262	122,776	119,970	131,539
飯田市立 動物園	126,302	108,694	121,401	148,429	144,225	137,632	132,619
合計	284,094	235,700	263,697	319,056	309,941	309,083	321,214

〈分析内容〉

「文化・交流施設利用者数」は基準値対比で約13%増加、目標値対比では約7%上回っている。また対象施設の内、飯田市美術博物館及び川本喜八郎人形美術館を除く施設で目標値を上回る利用数となっている。特にエコハウスでは、イベントや環境教育等の普及・

啓発活動に取り組んだことで、基準値対比較で約47%の増加につながっている。他施設についてもコロナ禍からの回復が一時収まり、前年度の利用者数を若干下回る施設もあるが、基準値対比では飯田市立中央図書館と飯田市立動物園が大きく上回っている。中央図書館では周辺飲食店と連携した出張図書館の他、中央図書館開館110周年記念事業を開催した令和7年度に大きく増加しており、動物園ではナイトZOO等の工夫を凝らした新たな取り組みにより利用者数増加につながっていると考えられる。一方で、飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館は基準値を大きく下回っている。これは、主な利用者である団体観光旅行者がコロナ前までの回復に至っていないことが要因と考えられる。また、旧飯田測候所は、測候に関する計器等の展示や貸館として利活用してきたが、利用者の固定化もあり利用者数は目標値に達していなかった。そのため、地域との協議を重ね、令和7年度から指定管理制度を導入した結果、目標を達成している。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 春草通り活用事業（まちづくり委員会、飯田市）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	仲ノ町から旧飯田測候所を「春草通り」と命名し、地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの活性化を図る。 旧飯田測候所に付属する測風塔を、環境教育とコミュニティ活動の拠点として地域で活用できる展望台施設等へと改修することで付加価値を与え、ソフト事業との相乗的効果を図ることにより、まちなかの賑わいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：施設利用者数：1,400人/年 最新値：施設利用者数：1,517人/年（目標達成） 調査地点：旧飯田測候所
達成した（出来なかった）理由	令和7年度から指定管理制度を導入して施設の有効活用を進めており、目標値を約8%上回っている。以前は開催されていなかった各種講座等の利用が進んだためと考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	沿線の空き家を改修し市民が集える居場所づくりの提案事業や旧飯田測候所でのイルミネーション事業、春草生誕150周年事業として秋の茶会等の取り組みにより賑わい創出を図っている。
事業の今後について	民間事業者のノウハウを活かした旧飯田測候所の指定管理者制度の運営により、地域と連携した施設の有効活用に加えて、春草通りを活かした地域の取り組みや、沿線の空き家を活用した居場所づくり事業、風情ある春草通りを活用するための学習会等による空間価値の意識向上に取り組むことでまちの賑わいを創出していく。

②. 丘のまち情報交流サロン事業（飯田市）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の情報提供やコミュニティ活動の拠点として、本市の施設を活用した市民交流サロンの検討と整備を実施し、官民連携の事業推進と市民活動の支援を行うことにより、さらなる丘のまちの魅力向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：施設利用者数：1,230人/年 最新値：施設利用者数：—人/年（目標未達成）

	調査地点：丘のまち情報交流サロン
達成した（出来なかった）理由	丘のまち情報交流サロンは当初の予定を変更し、情報提供機能を観光案内所及びまちなかインフォメーションセンターへ、交流機能をムトスぶらざやゆいきっず広場へ機能分散し設置している。
計画終了後の状況及び事業効果	令和4年5月にムトスぶらざが開設され、公民館事業だけでなく2・3階のフリースペースを活用しコミュニティ活動も行われている。また、令和4年5月にトップヒルズ本町1階に商業施設のなみきマーケットが開店し、さらに、店内には交流スペースも設置されていることから、ゆいきっず広場等の周辺施設含めてまちなか居住者や来訪者に対する新たな交流の場として利用が進んでいる。
事業の今後について	引き続きムトスぶらざやトップヒルズ本町の交流スペースや施設の機能を活用し、多様な主体による連携をさらに深めていくよう、各種事業に取り組んでいく。

③. ライフスタイルの低炭素化事業

（まちづくり委員会、おひさま進歩エネルギー(株)、飯田市）

事業実施期間	令和2年度～ 【実施中】
事業概要	中心市街地にあるエコハウス、旧飯田測候所を拠点に、エコライフに関するイベントや環境教育等の省エネルギーを目指したライフスタイルの普及・啓発活動を実施することにより、快適なまちなか居住の推進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：施設利用者数：5,434 人/年 最新値：施設利用者数：7,680 人/年（目標達成） 調査地点：エコハウス
達成した（出来なかった）理由	各種事業の際にエコハウスを活用し、エコライフに関するイベントや環境教育等の普及・啓発活動に取り組んだことで、目標値を約41%、基準値対比で約46%の増加につながっている。
計画終了後の状況及び事業効果	コロナ禍を含め毎年利用者数が増加している。エコライフに関する事業のみならず多様な事業での活用が進み、各主催者のつながりを生み出すなどの相乗効果も生じている。
事業の今後について	エコハウス単独事業での集客は難しいことから、エコハウスで開催する講座等の充実を図りながら、沿線で行っている事業や周辺施設と連携した取り組みを実施することにより、事業の推進及び施設利用者の増加を図る。

④. 丘のまち回遊促進事業

（まちづくり委員会、NP0 いいだ応援ネットイデア、飯田まちなか回遊促進研究会環境文化教育機構(株)、飯田市）

事業実施期間	令和2年度～ 【実施中】
事業概要	来街者の核施設となる飯田市立動物園を軸に、りんご並木、桜並木、春草通りに点在する個店や飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館等の施設が連携し、まちなか回遊を生み出すスタンプラリー事業の展開により、中心市街と全体の商業活性へ効果が波及を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和2年7月～令和8年3月

事業目標値・最新値 及び達成状況	目標値：施設利用者数：290,243 人/年 最新値：施設利用者数：312,017 人/年（目標達成） 調査地点：飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園
達成した（出来なかった）理由	コロナ禍からの回復が一時収まり、前年度の利用者数を若干下回る施設もあるが、基準値対比では飯田市立中央図書館と飯田市立動物園が大きく上回っており、目標値を約 8% 上回る結果となった。中央図書館では周辺飲食店と連携した出張図書館の他、中央図書館開館 110 周年記念事業を開催した令和 7 年度に大きく増加しており、動物園ではナイト ZOO 等の工夫を凝らした新たな取り組みにより利用者数増加につながっていると考えられる。
計画終了後の状況 及び事業効果	事業として春休みに取り組んでいる「丘の上さんぽラリー」は、これまで加盟店の追加や事業内容の見直し、参加店舗で扱う商品の景品化等に取り組んできた結果、過去最高の応募数を得ることができ、中心市街地の賑わい創出に大きく寄与している。
事業の今後について	中心市街地の店舗を知ってもらうことを目的に開始した丘の上さんぽラリーは、事業も定着化し参加者も増加してきているため、今後も店舗を訪問し楽しんで回遊できる要素を充実させることに加えて、周辺施設との連携をさらに深め事業の強化を図る。

⑤. 丘のまちミュージアム活用事業
（まちづくり委員会、飯田市）

事業実施期間	平成 26 年度～ 【実施中】
事業概要	飯田市美術博物館、まちづくり委員会、地域商店街等が連携し、飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、歴史文化遺産、文化芸能、町並み、景観のすべてを地域ミュージアムと捉え、それぞれが関連するテーマを題材とする特別展示等を企画し、知的交流拠点となるまちなかを創出し、来訪者の回遊推進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和 2 年 7 月～令和 8 年 3 月
事業目標値・最新値 及び達成状況	目標値：施設利用者数：290,243 人/年 最新値：施設利用者数：312,017 人/年（目標達成） 調査地点：飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園
達成した（出来なかった）理由	コロナ禍からの回復が一時収まり、前年度の利用者数を若干下回る施設もあるが、基準値対比では飯田市立中央図書館と飯田市立動物園が大きく上回っており、目標値を約 8% 上回る結果となった。中央図書館では周辺飲食店と連携した出張図書館の他、中央図書館開館 110 周年記念事業を開催した令和 7 年度に大きく増加しており、動物園ではナイト ZOO 等の工夫を凝らした新たな取り組みにより利用者数増加につながっていると考えられる。
計画終了後の状況 及び事業効果	飯田市立動物園と飯田市立中央図書館の利用者数が基準値を大きく上回っている一方で、飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館の施設利用者数は、基準値対比で 10% 以上減少している。市外からの入館者が多く、ツアー等の団体客がコロナ禍以降回復に至っていない。
事業の今後について	多くの施設ではコロナ禍前を上回る利用者数につながっていることから、テーマを絞った特別展や施設同士を結ぶ取り組みを強化す

	ることで来街者の増加と回遊推進を図る。
⑥. ソサイエティ 5.0 社会を見据えたデジタル技術活用まちづくり事業 (丘メン実行委員会、KDDI(株)、飯田市)	
事業実施期間	令和2年度～ 【実施中】
事業概要	KDDI(株)の持つ次世代デジタル技術(5G)と中心市街地の歴史的・文化的資源を活用し、新たなまちの賑わいづくり事業を毎年1地区で開催することで、関係人口づくりと来街者の回遊促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省) 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値:施設利用者数:290,243人/年 最新値:施設利用者数:312,017人/年(目標達成) 調査地点:飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園 達成状況:飯田市立動物園と飯田市立中央図書館の利用者数が大きく寄与し、目標値を約8%上回る結果となった。
達成した(出来なかった)理由	コロナ禍からの回復が一時収まり、前年度の利用者数を若干下回る施設もあるが、基準値対比では飯田市立中央図書館と飯田市立動物園が大きく上回っており、目標値を約8%上回る結果となった。中央図書館では周辺飲食店と連携した出張図書館の他、中央図書館開館110周年記念事業を開催した令和7年度に大きく増加しており、動物園ではナイトZOO等の工夫を凝らした新たな取り組みにより利用者数増加につながっていると考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	事業としては企業協力の基、地元高校生と共同でGPS機能を活用したまちなかの人流データ調査や、市の観光資源の一つである桜や焼肉店をスマホで紹介、案内できるコンテンツを作成し情報発信に取り組んだ。
事業の今後について	次世代デジタル技術を楽しんでもらうことができるコンテンツ作成に取り組むことに加えて、課題解決に向けた活用方法にも取り組むことで、関係人口の拡大と地域のデジタル化を目指す。
⑦. 交流人口・関係人口増大支援事業((株)南信州観光公社、飯田商工会議所、飯田市)	
事業実施期間	令和2年度～ 【実施中】
事業概要	リニア時代に向けた大都市圏との近隣交流を踏まえ、まちなか観光を促進し、国内外から多くの人を引き付ける魅力づくりに取り組むことで、交流人口・関係人口・滞在人口の拡大を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省) 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値:設定していない 最新値:—
達成した(出来なかった)理由	観光でも利用されている文化交流施設利用者数は基準値対比で約13%増加し、目標値対比も約8%増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	文化交流施設利用者数は基準値対比で約13%増加し、目標値対比も約8%増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。事業としては南信州観光公社が実施するまちなかランチ事業で団体向け利用が本格化しており、南信州こだわりの旅ツアーの「第3回サステナブルな旅アワード(2025年度)」特別賞の受賞や長年に渡る広域での農家民泊の取組が「2025年世界

	の持続可能な観光地 TOP100 選」(GDTOP100) に選出されるなど、持続可能な観光のモデルケースとして高く評価されてきている。
事業の今後について	観光需要の少ない冬をターゲットにした南信州冬のキャンペーンや、旅の目的を場所から人へフォーカスした南信州人物図鑑などを活用して、当地域との関係人口拡大を目指し、この地域への再訪を促していく。

⑧. 商業的・文化的イベント事業
(飯田商工会議所、飯田やまびこマーチ実行委員会、オーケストラと友に音楽祭実行委員会、獅子舞フェスティバル実行委員会、お練りまつり実行委員会、いいだ人形劇フェスタ実行委員会、りんご並木の街飯田まつり協議会、T0J 南信州ステージ実行委員会)

事業実施期間	平成 21 年度～ 【実施中】
事業概要	歴史ある文化事業やイベントを継続的に実施するとともに、新しいまちなかイベントの創出や新たな交流と賑わいを創出することにより、まちなかの魅力向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 令和 2 年 7 月～令和 8 年 3 月
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値：設定していない 最新値：－
達成した（出来なかった）理由	観光でも利用されている文化交流施設利用者数は基準値対比で約 13%増加し、目標値対比も約 8%増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	文化交流施設利用者数は基準値対比で約 13%増加し、目標値対比も約 8%増加していることから、まちなかを訪れる人は増加傾向にあると考えられる。各種行事の参加者はコロナ禍に減少したものの概ねコロナ前の水準に戻りつつある。飯田やまびこマーチ及びいいだ人形劇フェスタでは同時期に行われる中心市街地のイベントとも連動して県内外より多くの参加があり、参加者特典として施設利用料の割引または免除を行っていることから文化交流施設の利用と中心市街地の回遊につながっている。
事業の今後について	引き続き飯田らしい魅力あふれる商業的・文化的イベントを実施することにより、新たな交流と賑わいを創出する。

●今後の対策
「文化・交流施設利用者数」は、主要 6 事業の内 5 事業が目標を上回る結果となった。コロナ禍以降、人の流れは戻ってきているが、遠方からの団体観光客の回復までには至っていない。市外への情報発信を強化することに加えて、市民や個人観光者等への誘客促進を更に強化するとともに、施設同士の連携した事業を行うことで相乗効果を図りたい。